

問1 鹿児島県では、海外から輸入される安価な豚肉に対抗するため、どのような農業戦略を強化してきましたか。その背景と内容の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。（2017年 滋賀公立入試 類似）

1. 経営規模を拡大するとともに、「かごしま黒豚」などのブランド化を行い、品質の高さで差別化を図る戦略。
2. 飼育戸数を大幅に増やすことで国内市場を独占し、輸入豚肉と同等の低価格を実現する戦略。
3. 豚肉の生産を縮小し、より単価の高い肉用牛の飼育へ全面的に転換することで収益を確保する戦略。
4. 飼育にかかるコストを削減するため、品種改良を中止し、安価な外国産品種の導入を進める戦略。

問2 日本の諸地域の統計において、海岸線の延長が2665kmと非常に長く、かつ隣接する府県の数が「1」となっている県について述べた文として、地理的な背景を踏まえた正しいものはどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 屋久島や奄美群島などの多くの離島を抱えているため、海岸線が長くなっている。
2. リアス海岸が発達しているため、隣接する県数が極端に少なくなっている。
3. 県全体が広大な平野で構成されており、海に面した部分が多いためである。
4. 九州地方の中央部に位置し、周囲を海に囲まれた内陸県のような性質を持つためである。

問3 福岡県の産業や交通の実態について、その背景や特徴を説明したものととして適切なものはどれですか。（2025年 秋田公立入試 類似）

1. 県庁所在地の福岡市は政令指定都市であり、交通の要所として国内線旅客数が非常に多い空港を有している。
2. 広大な平野を利用した大規模な機械化農業が中心であり、工業よりも農業産出額の割合が高い。
3. 東北地方の経済の拠点であり、鉄鋼業よりも電子部品や自動車の製造が産業の中心となっている。
4. 中京工業地帯の中核として、航空機の利用客数よりも自動車の出荷額において全国一の規模を誇る。

問4 九州南部の宮崎県や鹿児島県の平野部では、冬でも温暖な気候を活かして、ビニールハウスなどの施設を利用して出荷時期を通常より早める工夫が行われています。このような栽培方法の名称と、この地域で盛んに生産され、東京などの大消費地へ出荷される農作物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 東京都公立入試 類似）

1. 促成栽培（そくせいさいばい）ときゅうり
2. 抑制栽培（よくせいさいばい）とレタス
3. 高冷地農業とキャベツ
4. 近郊農業とピーマン

問5 1978年から2018年にかけての沖縄県の観光に関する統計資料を分析すると、観光客数と観光収入の双方が著しい成長を見ていることがわかります。この約40年間の変化について、数値の推移から読み取れる事実として最も適切なものはどれですか。（2024年 群馬公立入試 類似）

1. 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
2. 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
3. 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
4. 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。

問6 九州地方のある県における2019年の農産物産出額の統計では、上位から順に「肉用牛」、「豚」、「ブロイラー（鶏）」、「鶏卵」となっており、上位4品目すべてを畜産関連が占めています。このような特徴を持つ県として最も適切なものを選びなさい。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. 鹿児島県
2. 宮崎県
3. 熊本県
4. 福岡県

問7 日本列島の九州の北方に位置し、朝鮮半島との間に位置する地理的特徴から、古くから大陸との窓口としての役割を果たしてきた長崎県の島はどれですか。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 対馬
2. 壱岐
3. 五島列島
4. 種子島

問8 日本の諸地域の気候を統計資料から判別する場合、宮崎県（宮崎市）のデータに該当する特徴的な数値の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。
2. 1月の平均気温が約5度であり、12月から2月にかけての降水量が1年で最も多い。
3. 8月の平均気温は約28度まで上がるが、年間の降水量は1200mm程度と非常に少ない。
4. 1月の平均気温が氷点下となり、年間の降水量は季節による大きな変動がなく一定である。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
経営規模を拡大するとともに、「かごしま黒豚」などのブランド化を行い、品質の高さで差別化を図る戦略。
- 日本の畜産業は、貿易の自由化によって流入する安価な輸入肉との厳しい競争にさらされてきました。鹿児島県ではこれに対抗するため、1戸あたりの経営規模を拡大して生産効率を高めるだけでなく、独自の品種改良を重ねた「かごしま黒豚」などのブランド化を推進しました。単なる価格競争ではなく、付加価値の高い高品質な肉を生産することで、独自の市場的地位を築いています。
- 問2** **答え 1**
屋久島や奄美群島などの多くの離島を抱えているため、海岸線が長くなっている。
- 鹿児島県は、薩摩半島・大隅半島という2つの大きな半島のほかに、多くの有人・無人の離島を抱えています。海岸線の長さは島が多いほど増える傾向にあるため、このような統計結果となります。また、地理的な位置関係から、陸上で境界を接しているのは宮崎県のみという特徴があります。リアス海岸は海岸線を複雑にしますが、それが隣接県数の少なさ（1県）に直結する理由ではありません。
- 問3** **答え 1**
県庁所在地の福岡市は政令指定都市であり、交通の要所として国内線旅客数が非常に多い空港を有している。
- 福岡市は九州最大の都市であり、商業やサービス業が発達しているだけでなく、交通網の結節点としての役割を担っています。特に航空路線の国内線旅客数の多さは、福岡県が九州全域と全国を結ぶ玄関口であることを示しています。工業面では、北九州市を中心に重化学工業である鉄鋼業が伝統的に発展しており、農業産出額に比べても高い工業出荷額を維持しています。
- 問4** **答え 1**
促成栽培（そくせいさいばい）ときゅうり
- 宮崎平野などの九州南部では、黒潮（日本海流）の影響を受けた温暖な気候を利用し、他の地域よりも収穫時期を早める「促成栽培」が盛んです。ビニールハウスなどの施設栽培によって、冬から春にかけてきゅうりやピーマンなどが多く生産され、野菜が不足する時期の都市部へ供給されています。
- 問5** **答え 1**
観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
- 1978年から2018年にかけての統計を見ると、沖縄を訪れる観光客数は約7倍強（140万人から約1000万人）に増加しており、これに伴って観光収入も右肩上がりの推移を見せています。選択肢にある「8倍以上の増加」は、 $1000 \div 140 = \text{約}7.14$ 倍であることから統計上の事実とは言えません。この観光産業の成長により、沖縄県はサービス業を中心とした第3次産業が経済の柱となっています。
- 問6** **答え 1**
鹿児島県
- 鹿児島県は九州地方の南部に位置し、広大なシラス台地を利用した畜産業が非常に盛んです。特に肉用牛、豚、ブロイラーの産出額は全国でもトップクラスであり、農業産出額の多くをこれらの畜産品が占めているのが特徴です。選択肢にある宮崎県も畜産業は盛んですが、この統計順位に最も合致するのは鹿児島県です。
- 問7** **答え 1**
対馬
- 九州と朝鮮半島のほぼ中間に位置しており、その距離の近さから古代より大陸文化流入の要衝となってきました。現在は長崎県に属しています。選択肢にある壱岐は対馬と九州の間に位置し、五島列島は九州の西側に位置する島々です。
- 問8** **答え 1**
1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。
- 宮崎市の気候データでは、低緯度であることと暖流の影響により、冬場の気温が他地域に比べて高いことが最大の特徴です。降水量の推移については、初夏の梅雨（6月）と秋の台風（9月）の時期に明確な山（ピーク）が形成され、年間の合計降水量も全国的に見て高い水準になります。選択肢にある「冬の降水量が1年で最も多い」ものは日本海側の気候、「年間の降水量が1200mm程度と非常に少ない」ものは降水が遮られる瀬戸内側の気候の特徴を示しています。